

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店〔土産〕 （店員）	・今後、偽装表示問題の影響で生産中止となっていた菓子が発売再開すると、最初のうちは苦戦するかも知れないが、徐々に販売量も増えて以前のような数字になってくる。現状でプラスあるいは現状維持をキープできていれば、問題となった菓子が販売再開された際には、その分、売上に上乗せできることになる。現場でも、客が当該菓子の販売再開を早く望んでいるという声をよく聞いている。
		百貨店（販売促進担当）	・地元球団の優勝セールに期待している。セールでの直接的な売上だけでなく、街全体への人出が増加することによる間接的な効果も見込める。また市民の気分が高揚し、財布のひもが緩みそうである。
		家電量販店（経営者）	・地上デジタル放送の開始に伴うAV商品の販売増が見込まれ、年末に掛けてもその流れが続く。
		家電量販店（地区統括部長）	・10月から地方都市の地上波デジタル放送が始まるため、今年の歳末商戦は、薄型テレビ、DVDレコーダーを中心としたAV機器の需要が伸びることが予想される。
		観光型ホテル（経営者）	・団体観光客の動きが良くなりつつあることから、宿泊客数は回復に向かうことが見込まれるが、その半面、宿泊単価が低下傾向にある。総体としては、天候等の不測の事態がなければ好転する。
		旅行代理店（従業員）	・高額商品の申込みが目立っており、今後についてはやや良くなる。
変わらない		商店街（代表者）	・天候やイベントの開催、店舗の新規開店、既存店舗の閉店などの要因での変化はあっても、中心街への来街者の消費動向は大きくは変わらない。
		商店街（代表者）	・冬物の最盛期となるが、このまま高めの気温で推移し、冬の訪れが遅くなると、コートや防寒衣料の動きの出足が悪くなるが見込まれるため、現時点では、何とも言いえない状況にある。
		商店街（代表者）	・観光客の入込が昨年よりも良く、また気温も高いために地元客が買物に来る回数が多いこと、固定客数が多くなったことなどから、今後についても変わらずに推移する。
		百貨店（売場主任）	・暖冬になることが考えられるので、コート類の動きが心配される。また、景気の動向も厳しく、客の買い方の面からは高額商品の動きも心配される。
		スーパー（店長）	・前年比の動きをみると、食品、生鮮品が底を打ち緩やかながらも上昇軌道に乗りつつある。急速な回復は望めないものの、今後についても変わらずに推移する。
		スーパー（店長）	・依然として好況への材料感が乏しいが、長期的な創業イベントセールに期待が持てる。
		スーパー（役員）	・9月は来客数の増加に伴い売上も増加したが、これは例年よりも気温が高く、また農作物の収穫期であることによる、一時的な影響であり、今後も売上の増加が続くとは考えられない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・冬場に向かって医薬品業界はやや活性化していくものだが、現在の状況を考えると、現状維持がやっとであると見込まれる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・今冬も原油高騰の影響で暖房用の灯油価格が高値にて推移する。
		旅行代理店（従業員）	・先行き不透明感が漂い、予想できない面もあるが、景気が良くなる要因は見当たらない。
		旅行代理店（従業員）	・原油高があらゆる面に影響しており、今後、海外旅行が好転することは困難であると見込まれる。
		タクシー運転手	・利用客が減っている状況の中、札幌では新規参入するタクシー会社も出ているので、これからはまだまだ売上が減っていく。
		観光名所（役員）	・観光入込客数が増加する動きはあるものの、増減の幅が大きく、非常に不安定な海外客需要に頼る部分が多く、先行きに不透明感がある。

	その他レジャー施設 (職員)	・季節的な増加要因はあるものの、前年比では増加が望めそうになく、むしろ悪くなる可能性もある。ただ、無料イベントを実施する予定があるため、利用者が一時的に増え、しばらくはその余波で利用者増が見込める。	
	美容室(経営者)	・灯油を使う季節になってくるが、客には灯油が値上げされる不安感があるようであり、今後、消費意欲が好転する雰囲気は感じられない。	
やや悪くなる	スーパー(企画担当)	・税金の実質負担増、年金問題に象徴される将来不安、原油価格高騰に伴う冬場の暖房費の値上がりに対する懸念、原材料価格の上昇に伴う食品、日用雑貨などの値上げ圧力など、客の買物行動へのマイナスの影響が懸念される。	
	コンビニ(エリア担当)	・ビールなどでケース単位の買物が減少している。また、安いビールを購入する人が増えている。遠隔地の行楽地へ出掛ける人が減っている。パチンコ店周辺の店でのたばこの売上の減少がある。これらのことから、ガソリン代の値上げ、税負担感などから消費抑制の動きが感じられ、今後についてはやや悪くなる。	
	コンビニ(エリア担当)	・第1次産業の不振の影響が大きくなってくる。特に漁業、農業ともに不振であるエリアでの売上減少が懸念される。都市部では工事需要の減少、消費者金融の貸し渋りの影響で、若年層、非正社員層の購買力低下が懸念される。	
	コンビニ(エリア担当)	・原油の高騰が続き、これから冬期に向けてハウス農家などの経営が厳しくなってくる。前年同様に離農者が増える話もあり、農業地帯での売上減少が続く。	
	衣料品専門店(店長)	・北海道はこれから寒くなるが、客は衣料品にお金が掛かることや灯油が高くなることを心配している。医療費の値上げもマイナスに影響してくる。	
	一般レストラン(スタッフ)	・今後も原材料等の値上げが予想されるが、販売価格の値上げは難しい状況であり、収益面での悪化が予想される。	
	観光型ホテル(経営者)	・個人客の動きは比較的安定しているが、このところ団体客が減少傾向にあり、今後もこの傾向は変わらない。	
	旅行代理店(従業員)	・航空会社の料金値下げ競争が激化する中、直販が脅威である。団体旅行については、経済が低迷している中、企業旅行の需要はなかなか見込めない。	
	タクシー運転手	・最近の灯油の値上がり傾向から、北海道は冬期間に向けてなお一層の節約ムードとなる。	
	その他サービスの動向を把握できる者	・シーズンオフに入るが、原油や石油製品、食料品の値上げなどから観光マインドは一層低下することが見込まれ、良くなる要素は見当たらない。	
	設計事務所(所長)	・ユーザーの関心が価格に突出する傾向が顕著であり、仕事をして利益が出ないという状況がますます多くなりそうである。	
	設計事務所(職員)	・建設業界のとどまるところを知らない低価格受注、談合等の不祥事に端を発する建設会社の営業停止や指名停止処分が、北海道の景気にボディブローのように効いている。	
	住宅販売会社(従業員)	・原油高騰による物価の上昇により、生活に掛かるお金が増加し、住宅ローンに対する資金のねん出が減ってくることが見込まれる。	
悪くなる	コンビニ(エリア担当)	・鉱物資源、商品価格等の値上げに拍車が掛かり、今後、消費者の買物行動はより厳しさを増してくる。さらに、競争相手の価格低下が進み、競争も厳しくなる。	
企業動向関連	良くなる		
	やや良くなる	通信業(営業担当)	・近い将来の受注予測数が当初計画より上ぶれの数字となっており、今後については、今よりやや上向いてくる。
	変わらない	家具製造業(経営者)	・受注請負物件の需要が減少しつつあり、今後については変わらないまま推移する。
		輸送業(営業担当)	・燃料は高止まりで、トラック部門のコストを押し上げている。なかなか荷主に価格転嫁できない状況であり、社内では経済速度での運行を励行することで、燃料の消費量を抑えている状況であり、今後についても変わらないまま推移する。
		金融業(企画担当)	・企業収益が厳しいことから冬の賞与も抑制が予想されるなど、個人消費は弱めの動きとなる。建設関連は官、民工事とも減少傾向に変わりなく、厳しさが続く。観光関連も端境期となるほか、土産菓子等の偽装表示問題の影響が懸念される。総じて景気に大きな変化はないものとみられる。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	・取引の主力である建設、運送業界に今後良化する要因が見当たらないため、今後についても変わらないまま推移する。

	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（役員）	・原材料、運送費などの経費が増えているが、競争が厳しいため、簡単に価格に転嫁できず、今後についてはやや悪くなる。
		輸送業（支店長）	・農産物等の季節商材は増加が見込めるものの、鋼材、木材、建設資材等の物資については、荷動きが大きく落ち込むことが予想される。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・前向きな見通しもあるものの、下期の受注見通しが見えていない状況にある。本州物件の道内への発注も第4四半期以降との見方もあり、良くなる要因に欠ける。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業の採用の動き、就業者の動き共にあまり活発には感じられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年から減少しており、今後についても変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・8月までの累計月間有効求人倍率は0.45倍となっている。前年からは0.03ポイントのマイナスで推移しており、改善の兆しが見えてこない状況にあり、今後についても変わらないまま推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が3か月連続で前年を下回っており、足踏み感が強まっている。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・秋から冬にかけては、特に目立った人材の需要は起こっていない。また、道内企業の9月中間決算の状況を踏まえると、企業が経費削減に動くことが予想され、道内の景気にはマイナス要因となる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大企業、道外資本、間接業種の求人がプラスに寄与している一方で、大半を占める中小零細の求人が思わしくなく、今後の動向が心配される。
職業安定所（職員）		・事業主都合による離職者が増加する一方、求人の増加が見込めなく、今後の求職者の滞留が想定される。	
悪くなる	-	-	